

本科 10月23日(木)

第38・39回講座 「山の自然入門」

講師 大木 淳一氏(県立中央博物館房総の山フィールドミュージアム主任上席研究員)

日時 10月23日(木) 10:00~15:00

場所 清和県民の森 木のふるさと館

テーマは、房総丘陵にて大地と生きものの密接な関係を学ぶ

紅葉が始まった房総丘陵の清和県民の森において、6月の養老溪谷における「川・沼の自然入門」に続き、大木淳一講師による「山の自然入門」の講座が行われた。当日は肌寒い小雨が降る中、午前中は木のふるさと館を出発し、整備されたセラピーコースに沿って展望台までの往復約2時間のコースを歩き、そして午後は予定された溪流から小さな山間の河川に場所を変更しての川の生きもの探しとなった。

生憎の天候ではあったが、房総丘陵の成り立ちを表す砂泥互層の地層や植物、そしてそこに生息する生きものなどを観察し、それらの密接な関係を学び、房総丘陵を知る良い機会の自然観察会となった。



森に入る前に木のふるさと館の中で、危険な生きものについての説明を受けました。



房総の山のフィールド・ミュージアム自然観察路について説明する大木講師



山道の砂岩の中に木の化石を発見



センブリの花



葉の付け根に埋もれるように咲いたカンアオイの花



展望台までの道の脇にはミツバツツジが群生し保護地域に指定されていました。



ニホンリスが松ぼっくりを食べた痕（森のエビフライ）を探しました。



展望台より東南の雨に煙る清澄山系
西寄りには九十九谷、鹿野山が・・・



房総丘陵に見られる砂泥互層の地層



房総丘陵の成り立ちを調べる鍵となる「鍵層」、凝灰岩層の清澄層



小さな河川にも様々な生きものがヒキガエル、ヤマアカガエル、ホトケドジョウ、カワニナ、ヌマエビ・・・